

## レブンアツモリソウの概要

### 1. 分類

被子植物 単子葉類 ラン科

レブンアツモリソウ

*Cypripedium macranthos* var. *rebunense*

絶滅危惧 IB 類（環境省レッドリスト2012）



### 2. 形態的特徴及び生物学的特性

- ・多年草の地生ランで、5月下旬～6月中旬に淡黄白（クリーム）色の大きく優美な花をつける。
- ・発芽及び生育には *Juniperus* 属の共生菌が関係していると考えられている。
- ・礼文島沿岸地域の適湿～やや乾性の明るい草原を主な生育地としている。
- ・日本固有種

### 3. 分布状況

北海道礼文島のみ分布する。

### 4. 現在の生育個体数

- ・開花個体数は3000程度（レブンアツモリソウ保護増殖ロードマップ2016）。
- ・自生地以外では礼文町高山植物培養センターにおいて、共生菌培養株の培養に取り組むとともに、無菌培養株についても技術維持のために培養している。

### 5. 生育を脅かす要因

- ・自生地でササ、高茎草本等が繁茂し、その被陰により本種が衰退。
- ・治山等により表土の攪乱機会が減少することで、新たな発生が起こりにくくなってきている。
- ・盗掘
- ・近縁種であるカラフトアツモリソウとの交雑が懸念されている。

### 6. 保護増殖事業の概要及びその効果

- ・平成6年国内希少野生動植物種に指定、平成8年保護増殖事業計画（農林水産省、環境省）と共同策定。
- ・群生地の一部（船泊地区1.7ha、鉄府地区4.6ha）を環境省所管地として管理。
- ・関係機関が連携した巡視により盗掘件数は激減。
- ・環境省所管地に永久コドラートを設置し、個体数の変動をモニタリングするとともに、ササの刈払いなどの生育環境改善手法の試験を実施。また礼文町もササの刈り払い試験を開始。

- ・今後の取り組みの方向性を示すロードマップを策定（2016.11）。
- ・群生地については、立入防止柵の設置、監視カメラの設置、巡視を実施。

## 7. 他法令等による保護

「レブンアツモリソウ群生地」及び「礼文島桃岩付近一帯の野生植物」が北海道の天然記念物として指定されている。